福島(帯南商3年)200も表彰台

高校歴代2位・大会新23秒81で3位

空前のハイレベル

力を出し切り「周りが強かった」

「もう経験はいらない。結果が欲しいです」。女子二百㍍決勝を終えた福島千里（帯南商3年）はため息とともにつぶやいた。全国制覇を目標に挑んだ百㍍で銀メダルに終わっただけに、どうしても頂点に立ちたかった二百㍍。23秒81とこれまでの高校歴代2位相当の大会新ながらも、1位の中村宝子（浜松西3年・静岡）は23秒48、2位の高橋萌木子（埼玉栄3年・埼玉）は23秒71と、ともにジュニア日本新、高校新を樹立する大会史上例のないハイレベルな戦いだった。

準決勝では福島、中村、高橋の3選手が同じ組に。各組2着と記録上位2人が決勝に進出できるため、ほぼ全力に近い走りを見せた3人はそれぞれ0秒01差で中村、高橋、福島の順でフィニッシュ。決勝では、好スタートを見せ序盤はリードした福島だったが、コーナーを抜けてからの中村の驚異的な伸びと高橋の終盤の強さにあと一歩及ばなかった。

「3年間で今年が一番結果が出せると思っていた。自分の力は出し切ったが、周りが強かった。でも、2人がいるおかげで自分も頑張れた」と福島は最後のインターハイを振り返る。

次戦は15日から北京で開かれる世界ジュニア選手権。9日には代表選手の招集となるが、「楽しみですが、まずはゆっくり休みたい」と一時の休養を経て、世界に挑戦する。

【女子二百㍍決勝】13年ぶりに道高校記録を更新する23秒81をマークして3位に入り、百㍍に続く表彰台に上がった福島千里（帯南商3年）

全国高校総体

佐藤 帯農3年 女子砲丸投げ 14メートル20 3位

【大阪】全国高等学校総合体育大会（インターハイ、06総体THE近畿）は5日午後、陸上競技の女子二百㍍で福島千里（帯南商3年）が23秒81の大会新、同砲丸投げで佐藤あずさ（帯農3年）が14㍍20でともに3位入賞を果たした。バドミントン男子個人戦シングルスに2回戦から出場した中鉢隼人（帯大谷3年）は、金谷聡士（千葉敬愛2年）から第1セットを15―12で奪ったが、2セット目以降ポイントを奪えず1―2で惜敗した。ウエートリフティング男子62㌔級の道見勝志（更別農3年）はトータル178㌔（スナッチ82㌔、ジャーク96㌔）で35位だった。バスケットボールは、男女とも準々決勝を行い、男子は多嶋朝飛（3年―帯大空中出）がメンバー入りする北陸（福井）が光泉（滋賀）を111―91、女子は反町真理子（3年―帯四中出）が主将の中村学園（福岡）が聖和学園（宮城）を73―46でそれぞれ勝利し、準決勝に進出した。第5日は6日、大阪府など各会場で15競技を行った。（宮木宗久）

【女子砲丸投げ決勝】佐藤あずさ（帯農3年）は14㍍20で1年ぶりに自己ベストを更新。3位入賞を果たした

自己記録を更新 満足げな笑顔

○…男子二百㍍準決勝に進出した鈴木俊広（白樺学園3年）は、21秒93の1組6着で決勝には進出はできなかったが、予選、準決勝とこれまでの自己ベストを上回るタイムを記録した。「体力的にきつかったが、今の自分の力は出し切った」と、満足げな表情を見せた。

予選をこれまでの自己ベストを0秒19縮める21秒81の好タイムで準決勝進出を決め、準決勝でも力強い最後までスピードに乗った走りを見せた。

昨年まではけがで思うような走りができなかっただけに、「ようやく調子が上がっていると思える走りができた」と笑顔。「まだ、スタートとコーナーの技術が足りない」と課題も見つかり、19日から始まる国体道予選（旭川）に向け、調整を続けていく。

【男子二百㍍準決勝・1組】自己ベストを更新する力走を見せた鈴木俊広（白樺学園）

【男子三段跳び予選・2組】右足を痛めながらも、自己ベストを目指し、果敢に競技に挑戦する齋藤奨（帯工）

良い経験積んだ

3年生として最初で最後のインターハイに出場した男子走り高跳びの榊聡（帯南商3年）の話

結果としては記録無しに終わったが、まさか自分が出場できるとは思っていなかったので、良い経験になった。十勝ではトップレベルでも全国ではレベルが上の選手ばかりなので、誰もが自分より上だった。競技を始めた時の気持ちを思い出すことができ、勉強になった。

重量挙げ

（5日・羽曳野市立総合スポーツセンター）（2位以下関係分）

【男子】◇62㌔級＝①和田大河（須磨友が丘・兵庫）228㌔（スナッチ96㌔、ジャーク132㌔）㉟道見勝志（更別農）178㌔（82㌔、96㌔）

バスケット

（5日・大阪府立体育会館）（関係分）

【男子】◇準々決勝

北陸（福井）111（30―30、23―24、26―23、32―14）91 光泉（滋賀）

【女子】◇準々決勝

中村学園（福岡）73（21―9、14―6、19―14、19―17）46 聖和学園（宮城）

バドミントン

（5日・東大寺学園高体育館）（関係分）

【男子】◇個人戦シングルス▽2回戦

金谷聡士（千葉敬愛・千葉）2（12―15、15―9、15―5）1 中鉢隼人（帯大谷）

陸上

（5、6日・長居陸上競技場）

最終日の6日は、男女8種目を行った。午前の男子4×四百㍍リレー準決勝は2組の白樺学園（佐々木康尊、西貴裕、鈴木俊広、阿部真光）が前日に記録した十勝高校記録をさらに短縮する3分15秒72で4位に入ったが、決勝進出はならなかった。同三段跳び予選には幅跳び6位入賞の小西康道（白樺学園1年）、皆川澄人（同1年）、齋藤奨（帯工3年）の3選手、同円盤投げ予選2組には菅野翼（帯農3年）が出場。菅野が48㍍09で決勝に進んだが、本間勝人（同3年）は、42㍍56で決勝に進めなかった。

第4日の5日は、10種目の決勝などを行った。上位4選手が23秒台を記録する大会史上例のない激戦となった女子二百㍍決勝は、福島千里（帯南商3年）が、13年ぶりに北海道高校記録を塗り替える23秒81を記録し、3位入賞。同砲丸投げ決勝でも佐藤あずさ（帯農3年）が自らが持つ同記録を更新する14㍍20をマークし、3位入賞を果たした。同七種競技の佐藤彩香（恵庭北2年―駒場中出）は4030点で総合26位。男子4×四百㍍リレー予選は6組の白樺学園（佐々木康尊、西貴裕、山口伸也、阿部真光）が十勝高校記録を3秒近く短縮する3分16秒54で3着となり、準決勝進出を果たした。

（5日）

〈予選〉（関係分）

【男子】◇4×四百㍍リレー▽6組＝③白樺学園（佐々木康尊、西貴裕、山口伸也、阿部真光）3分16秒54

【女子】◇砲丸投げ▽4組＝②佐藤あずさ（帯農）13㍍43

〈準決勝〉（関係分）

【男子】◇二百㍍▽1組＝⑥鈴木俊広（白樺学園）21秒93

【女子】◇二百㍍▽3組＝③福島千里（帯南商）24秒04

〈決勝〉（2位以下関係分）

【男子】◇二百㍍＝①安孫子充裕（上山明新館・山形）21秒14◇八百㍍＝①畠山政和（砂川）1分52秒35◇五千㍍＝①ミカ・ジェル人（仙台育英・宮城）13分57秒21◇走り高跳び＝①山田直人（小山南・栃木）2㍍06◇やり投げ＝①加藤拓也（自由ケ丘・福岡）69㍍93

【女子】◇二百㍍（追い風0・6㍍）＝①中村宝子（浜松西・静岡）23秒48・ジュニア日本新、日本高校新③福島千里（帯南商）23秒81・以上大会新◇八百㍍＝①久保瑠里子（広島井口・広島）2分5秒52◇走り幅跳び＝①木村文子（祇園北・広島）5㍍93（無風）◇砲丸投げ＝①佐藤明美（札幌拓北）14㍍30③佐藤あずさ（帯農）14㍍20◇七種競技＝①的場遥（添上・奈良）5144点（百㍍障害14秒49、走り高跳び1㍍58、砲丸投げ10㍍88、二百㍍26秒06、走り幅跳び5㍍64、やり投げ38㍍86、八百㍍2分25秒00）㉖佐藤彩香（恵庭北―駒場中出）4030点（16秒08、1㍍45、9㍍06、28秒44、4㍍79、30㍍48、2分28秒99）

頂点に届かず涙

自己記録更新も最後に失敗

佐藤リベンジ誓う

頂点を狙って挑んだ佐藤あずさ（帯農3年）の最後のインターハイは、1年ぶりの自己ベスト更新の笑顔と、結果を残せなかったことへの涙が同居した。

昨年のインターハイで14㍍09の道高校新で準優勝をしている佐藤だが、今季は冬場のひざのけがによる調整の遅れで自己ベストを更新する機会のないまま本番に臨んだ。

決勝では3投目に14㍍06をマークし、大きくガッツポーズ。首位に立ち笑顔でベスト8に進出した。4投目で全道高体連で接戦を演じた佐藤明美（札幌拓北3年）が14㍍30をマークしたが、佐藤も今季初の自己ベストとなる14㍍20の好投。さらなる記録更新に臨んだ佐藤の5投目はファウルとなり、6投目には今季ランキングトップの大谷優貴乃（添上・奈良）が14㍍27を記録。最終投てき者として巻き返しを狙った佐藤だったが、まさかの失敗投球で記録無しとなり、その場で泣き崩れた。

「狙っていたところで記録を出せず、狙っていないところで記録が出た。最後まで自分の投てきができなかったのが敗因」と肩を落としたが、西山修一監督は「まだ技術的に未熟な部分はあるので、まだまだ記録は伸ばせる」と話す。佐藤も「今回で悪い部分もはっきりしたので、次の国体道予選でリベンジです」と再起を誓っていた。

女子砲丸投げ3位入賞の表彰台に上がった佐藤あずさ（帯農3年）

OBIHIRO LADIES OPEN 2006

森田が単優勝

高雄を2―1で破る

帯広国際女子オープンテニストーナメント2006（帯広テニス協会主催、十勝毎日新聞社共催）最終日は6日午前10時からシングルスとダブルスの本戦決勝を行った。午前のシングルス決勝では、森田あゆみ（フリー）が高雄恵利加（北日本物産）を2―1で破り優勝を果たした。第6日は5日、シングルとダブルスの本戦準々決勝を実施。シングルス本戦では、森田と高雄が決勝進出を決め、ダブルス本戦準決勝では、飯島久美子・波形純理組（北日本物産・フリー）、久松志保・手塚玲美組（荏原製作所・フリー）が決勝に駒を進めた。（中津川甫）

〈シングルス〉

◇本戦トーナメント▽準決勝

高雄恵利加（北日本物産）6―1、6―7、6―2 米村明子（ワコール）

森田あゆみ（フリー）6―0、4―6、6―1 久松志保（荏原製作所）

〈ダブルス〉

◇本戦トーナメント▽準々決勝

久松志保・手塚玲美（荏原製作所・フリー）7―6、7―6 瀬間詠里花・高雄恵利加（ピーチ・ジョン・北日本物産）

▽準決勝

飯島久美子・波形純理（北日本物産・フリー）6―4、7―6 道慶知子・矢部由希子（ミズノ・アシックス）

久松・手塚 6―3、6―2 金恵美・田口景子（青森大・福島県体育協会）

フレッシュアップのお手伝い サンドライ 帯広市西5南4 ☎25-5552

シングルス敗退もダブルス決勝へ

痛みこらえ戦う久松

シングルス本戦準決勝で久松志保（荏原製作所）は強敵の森田あゆみ（フリー）と激突、惜しくも1―2で敗れたものの、ダブルスでは準々決勝、同準決勝で勝利を収め、ペアの手塚玲美（フリー）と決勝進出を決めた。

今大会では、腹筋に軽い肉離れを必死にこらえながら連戦をこなしてきた。「サーブや踏ん張るときなどに痛みますが大丈夫でした」と振り返った。

シングルス本戦準決勝では、森田に1セット目を6―0で取らせてしまったものの、2セット目はライン際を狙った豪快なストロークで徐々に得点を重ねて奪取。だが反撃はこれまでで3セット目は1ゲームしか奪えず敗退。「自分から攻めていけなかった」と悔しさをにじませた。

それでも久松は気持ちの切り替えが早く、前日に降雨により延期していたダブルスの準々決勝に出場。1、2セットともに7―6のタイブレークの末、からくも撃破。さらに続く同準決勝では3連戦の疲れを感じさせるどころか、強烈なボレーを決め相手を圧倒、6―3、6―2で下し、手塚とともに頂点に王手をかけた。

「北海道は乾燥しているから暑さは楽。決勝では自分たちのやれることを出し切りたい」と強い決意を見せていた。

ダブルス本戦準決勝で力強いプレーを見せる久松志保（左）。後ろはペアの手塚玲美